

令和 6 年 1 月元旦

小坂小学校避難所開設経過記録メモ

記録者 Mさん ※時系列、人数はおおよそです

16:10 能登半島珠洲市において震度 7 の地震発生。(今までに経験のない激しく長い揺れ。)

16:50 小坂第一町会の副町会長から電話あり。「小坂小体育館(避難所)に来てほしい。」

17:00 小坂小 2 階に到着。体育館は校長先生が開けてくれた模様。

すでに 10 数世帯、(約 30~40 名)の家族が避難していた。

体育館には、小坂中町会長 A さん、小坂第一町会副会長 B、C さん、小坂小 D 校長と教諭、市役所の職員 2 名、防災会の E さんが避難者に毛布を配布していた。(一人一枚を配布)、暖房器具は小学校の石油ストーブ 2 台のみ。

17:20 F 館長、G 連長(防災会会長)、防災士の H さんが駆け付ける。

市役所職員も 2 名増え受付等を担当。元防災会の I さんも体育館内設営を手伝う、段ボール等を床に敷き、家族単位でスペースを作り待機。

小坂中の A さんと校舎敷地内の各町会防災倉庫内の機材をチェック、一時避難に使えるような資材はほとんどなく、非常食、飲料水の備蓄もなし。

17:30 続々と避難者が増えピーク時約 50 家族(約 200 名位)、毛布備蓄足らず。

皆さん整然と待機。日暮れとともに寒くなる。とにかく体育館は寒い。

18:00 体育館 1F のトイレ使用。女子トイレは長蛇の列。

避難者家族が「うちのおふくろ足が悪いので、階段の上り下りが大変なんです！」との申し出がある。

2 階校舎のトイレ使用を校長に頼んでみたが、使用は無理との事。校舎への通路はシャッターが下りていて通行は出来なくなっていた。

18:10 町会防災倉庫内の簡易トイレを組み立てて、2 階通路のシャッター前に設置。

段ボールを利用し間仕切りを作成した。※案内をしたら、「そんな所では用は足せない」との声があり、結局、簡易トイレは未使用であった。

- 18：30 防災会の J さん、K さんが顔を出してくれた。(後に彼女たちは、他の避難所に行く)
- 19：00 ペット(犬)と一緒に避難所に見えた方がいた。(2世帯)が、「ペットとは一緒には入れないので!」と言うと、「仕方ない、車の中にいます!」と言って車に戻る。
後で気づいたが、ネコをリュック(ペット入れ)に入れて避難していた家族がいた。
- 19：30 1階に間仕切り用テントで、3畳くらいのスペースを(5つ)作り、足の不自由な高齢者の家族と他の家族を案内する。待機してもらう。4家族が利用した。
1階にもストーブをつけたが、とにかく寒い。
- 20：00 避難者に「食べ物は無いのか?」と聞かれるが、「ありません」と答える。近くのコンビニが開いているようですと誰かが教えていた。(何かを買いに行ったようだ。)
- 21：00 余震も落ち着いてきて、数家族が自宅に帰り出す。帰る際に一様に我々に「ありがとうございました。」と、言って帰って行かれる。「お互いに気を付けて!」と言葉をかわす。返却された毛布を寒いと言っている家族に配る。(避難者が増えたら返してほしい旨を告げる)
- 22：00 体育館には、数家族のみとなる。市役所担当者が「私は明日の朝まで残るので、皆さん帰ってもらってもいいですよ!」と言われ、D校長、教諭、市役所の女性、Hさん、Eさんにも帰ってもらう事にした。
- 22：50 市役所の方が「私は翌朝まで待機しますので、引き揚げてもらっても結構ですよ。」と気遣いを貰った。「何かあったらすぐに駆け付けますから」と、いってF館長、Gさん、Aさん、Mも帰宅する事とした。

令和 6 年 1 月元旦

小坂小学校避難所開設に伴う問題点

○避難支援等関係者・・・市役所職員、公民館職員、町会役員、防災士、小学校教諭

○避難支援の内容・・・市役所職員 4 名、公民館職員 2 名、防災会 5 名、町会長 1 名が体育館への案内、毛布の配布、避難所内の設営等を行った。

○当日の避難所人員体制・・・市役所職員 4 名、小学校長、教諭、公民館長、連合町会長、小坂中町会長、第一町会副会長 2 名、自主防災会（防災士 5 名）

■反省点及び課題について

	・校下、各町会単位で実施している避難訓練の成果はあったか？	×
	・自主防災組織が決めた組織図(体制)は、機能していたか？	×
	・連絡系統は機能していたか？ 自主的に避難所に来たメンバーだけ	×
避難所の 環境	・体育館の解錠について（校長の対応が速かった）	○
	・暖房器具（小学校のストーブを借りたが数が不足、体育館広い）	×
	・毛布（各町会の防災倉庫にもない）	×
	・各町会の防災倉庫の備品を使ってよいのか分からなかった	△
	・飲料水、非常用食料（備蓄なし、粉ミルクもなし）	×
	・乳幼児、高齢者、障がい者用の専用個室ない。特に高齢者用	×
	・体育館 1F のトイレしか使えない。（小学校のトイレは使用不可）	×
	・簡易トイレを 2 階の廊下に設置したが、不評	課題
	・情報機器(ラジオ・テレビ等)が無い	×
	・ペット対策（犬連れの 2 家族は断った、車にて避難）	×
	・各避難所でのリーダー不在（町会、防災士、社協の役割は）	×

避難所の 環境	・避難訓練あり方（絵にかいた餅ではダメだ、再検討必要）	×
	・住民への避難所の周知（北鳴中、小坂小、鳴和中、星稜大、城北児童館）	△
	・避難行動要支援者名簿について（名簿がなく分からなかった）	×
	・地域防災計画の避難ができたか（家族単位の避難が多い）	不明

■避難所の印象

- ・避難者の皆さんは、家族単位で体育館に体を寄せ合い座っているだけ、避難者同士の協力は、見られなかった。（会話もほとんど無かった）

■今後の課題

- ・各町会の持つ防災倉庫備品には、一時避難に使えるものが少ないように思えた。
- ・今後、非常食の備蓄も必要と思えた。
- ・町会備蓄倉庫内の備品の使用許可を誰がするのか分からなかった。
- ・避難者をお世話する側も被害を受けていることを理解して欲しい。

■後日談

- ・「あんな避難所に行かんといけば良かった、寒いし食べ物はないし」と小言があった。
- ・御所町会の人らしいが、星稜大に避難に行ったが、解錠されてなく、車中で過ごしたとの話も聞いた。
- ・自宅屋根が壊れたので、防災会、公民館にブルーシートは無いのかと質問があった。
- ・地域の皆さんは、避難所にさえ来ればなんでも揃っていると勘違いをしている人が多い。

■今回の反省点

- ・町会毎の避難訓練の在り方、体制図の見直しを図る。
- ・災害発生時には何が必要なのか、何が出来るのか避難所の在り方も含め検討する。
- ・防災士同士のスキルアップと同様、町会ごとの防災学習会を増やすべき。